

分類	主な意見の概要	事業者の見解
陸域生態系 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・カンムリワシの営巣木が見つまっているこれらの山頂には航空障害灯が設置される予定で繁殖への影響がある。 ・カタフタ山、水岳、タキ山東に建設が予定されている航空障害灯による生活活動に影響は及ぼされないだろうか。バンナ岳では影響なしとしているが、それはカラ岳でも通用するだろうか。生態系が変われば影響も変わるはずである。 	<p>本事業においては航空障害灯の設置工事をカンムリワシの繁殖期を避けてヒナの巣立ちから次の繁殖シーズンが始まる前に終了すること、人力作業を基本とすることにより影響の低減を図ります。また、バンナ岳はカンムリワシが集中的に生息する場所とされており、現地調査でも繁殖に係わる行動が確認されていることから、航空障害灯の存在や赤色灯の点滅によるカンムリワシの生息・繁殖に及ぼす影響は小さいものと思われる、本事業予定地のカタフタ山、水岳、タキ山東においても航空障害灯設置後も継続的な利用がなされるものと考えています。</p> <p>しかしながら、予測結果に不確実性を伴うことから、工事中、及び供用時に事後調査を実施していくこととしています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書では、事業区域とカンムリワシ行動圏の重複は、カラ岳掘削部の約1.78haで残りの餌場等は保全されると記述している。しかし、今後の土地利用では、住宅建設等もある。行動圏全域の土地を買い取る等、農耕地が餌場として維持されるという保証がなければ、行動圏が保全されるというべきでない。 	<p>p4-28に示すように、将来想定される土地利用については、現在のところ、現況と同程度と想定しています。将来においても現況が可能な限り維持されるよう関係機関に要請いたします。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・カンムリワシの営巣木はカタフタ山とタキ山で確認されている。しかし行動圏の解析はカタフタ山を中心に行われており、空港予定地により近いタキ山では行われていない。カタフタ山だけでなくタキ山を中心とする行動圏解析と影響評価を行う必要がある。 ・カンムリワシの営巣環境に対する影響評価を、タキ山エリアに対して行っていない。 ・カンムリワシの行動圏の解析は空港予定地から遠いカタフタ山を中心になされ、営巣場所がタキ山となった場合の解析は行われていない。 	<p>行動圏内部構造解析は、p6-12-63に示すように繁殖ペアの営巣期（4～6月）の行動や営巣位置に基づいており、繁殖年により営巣中心域がタキ山の方に移る可能性も考慮して営巣中心域の抽出を行なった結果であり、営巣中心域はカタフタ山とタキ山エリアも含む範囲と捉えております。ただし、タキ山の北側斜面は図-6.12.1.1 (25)に示すようにリュウキュウツミの営巣地となっており、カンムリワシによる利用に影響を与えているものと考えています。</p> <p>予測にあたってはカタフタ山とタキ山を含む範囲を営巣環境と捉え影響評価を実施しています。</p> <p>タキ山の営巣跡から空港端までは約1Km以上離れています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の準備書と違い、種間関係と人間活動の関係の調査は評価出来るが、種間関係の調査結果と人間活動とカンムリワシ生息地の関係の調査結果が、予測と保全対策に全く活用されていない。 	<p>p6-12-74に示すカンムリワシとオサハシブトガラス、リュウキュウツミの巣との距離関係についての調査結果を基に、カンムリワシの営巣環境を分析し、他の2種との巣間距離がカンムリワシの営巣活動に影響を与える要因として作用しているものと考え、内部構造図における営巣中心域の確定に活用しました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・カラスが増え、カンムリワシが減少傾向なら裏付けデータを予測に生かすべき。人間活動とカンムリワシの関係は、もう少し調査を行って簡単なHSIモデルを作成し、代償措置としての営巣地創出の際に活用することもできたであろう。予測に活用できるデータをとりたいものである。 	<p>カンムリワシの環境利用の分析において、餌場環境分析でp6-12-52に採餌の待ち伏せ場所の選択の際に農作業が影響している可能性を示しました。これより農作業以外にもカンムリワシの行動に影響を与える人間活動の状況を示し、この調査結果を内部構造の推定の際に活用しています。p6-12-201の予測でもカンムリワシの行動圏周辺の人間によるインパクトを考慮した上で、工事の影響について予測しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・カンムリワシの航空機との衝突の可能性があることが図示され、予測することになっているが、本文にその記述がない。セッカでの手法を参考に予測すべき。 	<p>カタフタ山のカンムリワシの繁殖ペアの最大行動圏は航空機の進入経路とは重ならないことや、供用時には航空機の騒音の影響により若鳥や移動個体の一時的な生息場所の利用状況が変化すると予測されることから、航空機との衝突についての予測を行っていません。</p>